

「初めの一步」

田 辺 敦 子

保育園の〇歳児クラスでは、目に見える子ども
成長が毎日のように目白押しです。数えきれないほ
どのそれらの成長には、どれにも必ずその子らしい
ドラマがあるのですが、私はそれらに出会うたび
に、自分が子どもの頃によく遊んだ（もちろん今の
子どもたちも大好きな遊びですが）『だるまさんが
ころんだ』の事を思い出します。鬼ごっこの要素も
含んだその遊びは、鬼以外の子が発する「初めの一

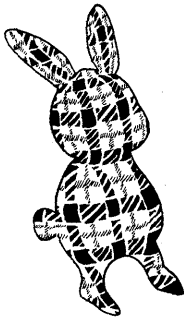
歩！」のセリフと共に開始しますが、「初めの一
歩！」と言いながら大きく第一歩を踏み出す時の興
奮が蘇ってくるのです。これから始まろうとする遊
びの未知の部分に対して、程よい緊張と期待とを抱
きつつ、仲間とその楽しみを共有していたのだと改
めて思い返します。今向き合っている子どもたちに
見られる数々の「初めの一步！」も、その子にとっ
て、ひとつひとつが甲乙つけがたい貴重な体験に

なっていくのでしよう。

さて、○歳児クラスの子どもたちに見られるその「初めの一步!」のひとつとして、「歩行の始まり」があげられます。

そもそも赤ちゃんが歩けるようになるには数々の中継ぎ箇所があり、それらの動きをひとつひとつ獲得し、積み重ねていくことが、その子の歩行を実現させる足掛りになっていきます。赤ちゃんたちは、日々の生活の中で寝返り・腹這い・よつ這い・お座り・つかまり立ち・つたい歩き・ひとり立ち・ひとり歩きというように、数多くの動作を全身で捉え獲得していくのです。

子どもは、自ら大きくなろうとする意欲（「初めの一步」）に対する積極的な姿勢）に満ちています。それは仰向けから寝返りをう



つようになつたばかりの赤ちゃんについても例外ではありません。そしてその意欲は、周りの大人からの励ましやまなざしが温かければ温かいほどまっすぐに高められていくように思います。そしてまた、お母さんやお父さん、そして私たち保育者も、子どもたちのそのまっすぐな姿に刺激されて、子どもたちが成長していく過程を心から喜べるようになりま。子どもが「歩く」ことを習得する際にも、この相互作用が大きな役割を担っているようです。

送迎時や園と家庭での様子を伝え合う連絡ノートでのやりとりの中で、我が子のひとり立ちやひとり歩きに対するお母さんやお父さんの新鮮な感想が、日々私たち保育者のもとに届けられます。最近も、次のような嬉しい報告をいただきました。

「休みの日の団欒中、ふと気がつくとYがひとり立っていたのでびっくりしました。家族皆で喜んで褒めたりしていたら、Yも嬉しくなったのか、何

度もくり返し見せてくれるようになりました。いつのまにか、Yが立っている時間を皆でカウントするようになってしまいました。なんと、昨夜は七秒も立っていられたのですよ。」

「Sは、ずり這いの期間が長く、その後すぐにお座りと、つかまり立ちを覚えてしまったので、ハイハイはしないままなのかな、と思っていたのですが、この頃好きなおもちゃを見つけるとハイハイをして取りに行くようになりました。子どもは、成長の段階を行ったり来たりしながら進んでいくのですね。」

「保育園で歌ってもらっている『あんよはじょうずく』のわらべうたを、お姉ちゃんと一緒に家でも歌ってみました。本当に嬉しそうに歩いているので、感動してしまいました。拍手をして褒めたら、Mも自分でパチパチと手をたたいて喜んでいました。」

始めのうちはぎこちない動作であっても、家族の

こうした温かいまなざしや励ましに包まれた中でくり返していく事で、新しくできるようになったハイハイやひとり歩きに自信を持つようになっていくのがよくわかります。

また、「初めの一步！」を経験し、ある程度歩行が安定してくると、今度は少し高度な遊びにも繋がっていきます。

クラスの中で高月齡児にあたるSちゃんとKちゃんは、日に日に安定した歩行を見せるようになり、方向転換や屈伸運動のような伸び縮みもできるようになってきました。そんなある日、大人が見守るなか、Sちゃんはフェルトで覆われている高さ十二センチメートル・直径二十四センチメートルの円形椅子（安定感のある手づくり遊具で、座ったり太鼓にして叩いたり、テーブルにしたり、と多様な用途のある遊具です）の上に立ちあがりました。この頃の子どもたちにとっては、ちょっとした段差であって

も上り下りするのが難しいのですが、Sちゃんはそんな素振りは見せずに、皆の注目を浴びてにこにこしていました。その見物にはもちろんKちゃんも加わっていましたので、KちゃんはSちゃんのポーズがすっかりうらやましくなったようです。その時以来Kちゃんは、自らも円形椅子に立つことを試み始めました。ところが、何度試みてもKちゃんは円形椅子の上に立つことができません。その事に私たち保育者も興味を持ち、SちゃんとKちゃんの立ち方の違いを分析してみました。そしてわかったことは、Sちゃんは椅子の上に完全に立つ前に、足だけではなく手も使つてよつ這い姿勢で上り、バランスをとつてから手を離して立ちあがるのに対し、Kちゃんは、最初から足だけを使って上ろうとしていたのです。ちよつとした動きの違いで結果が全く違うのには驚きです。しかし、その後のKちゃんの研究熱心な姿には、もつと感心してしまいました。あ

る時Kちゃんは、円形椅子を遊具棚の方へ運んでいき、棚につかまって椅子の上に立ったのです。これなら足だけでも上れます。また別の時には、円形椅子を二個つなげて椅子の上をハイハイして、最後にすつと立ちあがりました。憧れと好奇心を抱き続けて目標を達成させたKちゃんの根気勝ちです。

これから先、様々な道を自分の足で歩んでいく我が〇歳児クラスの子どもたちは、今まさに人生の「初めの一步」を踏み出したばかりです。そのかけがえのない瞬間に居合わすことができることを、本当に幸せに思います。

(かしのき保育園)